

又同日、日没出發入湯シ午後九時頃部落
ニ到着シ中央ノ包ニ入り前託手紙ノ如
ク話セルニ同夜ハ就寐スヘシトテ就
寐シタルニ翌早朝監視哨ニ連行サ
レタルナリ

以上海拉爾特務機關調査

一 密偵ノ供述内容
(1) 衛生隊

スフバートルノ所屬セシ「オダフト」機關
銃隊ハ一箇中隊約二四〇名ニシテ三箇
小隊ヨリ成ル、外蒙赤衛軍ノ大部ハ

0881

騎兵ニシテ師團、聯隊、中隊アリテ何レ
モ三進編成ナリ、
師團及聯隊ニハ衛生隊アリ中隊ニハ衛
生兵ニ名、獸醫務兵一名ヲ有ス、使用
藥品ハ何レモ、
衛生部員ハ絹帶及藥品ヲ入レタル緑色
カバンヲ携行ス、携行藥品ノ種類ハ
四十種以上ノ如ク、中ニ受傷ノ際使用ス
ル汰度並黒色軟膏、胸ヤケレノスル時飲
マセル丸薬、咽喉ノ悪キ時水ニ丸薬
ヲ入レルト赤色ノ液トナリ是ヲ以テ含

0882

嗽スル如キ藥等ヲ有スルモノ、如キモ本
密偵ハ衛生部員ニ非ラサル為詳細
ハ不明ナリ、
聯隊衛生隊ニハ軍醫長一名アリ、軍
醫長ハ醫師ナルモノ、如ク本密偵ノ
所屬セシ「マタツト」騎兵聯隊ノ「ガラマツト」
軍醫長ハ「ザバイカル、ブリヤード」出身
ニシテ本密偵モ嘗テ病氣ニ罹リシ時
診察ヲ受ケシトアリ、其ノ際軍醫長
ハ聽診器ヲ使用セルヲ見タリト稱ス
ハ際ニハ衛生隊員ハ何レモ左

0883
0884

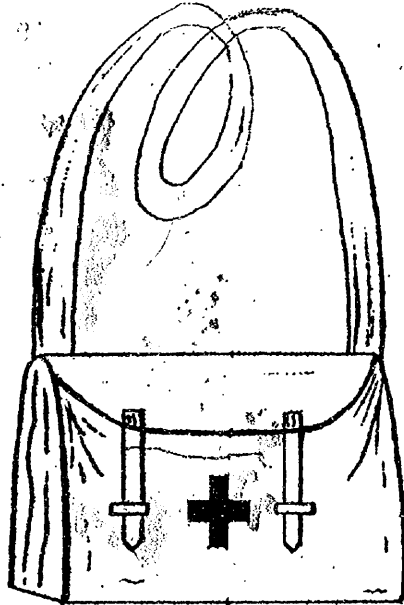
嗽スル如キ藥等ヲ有スルモノ、如キモ本
密偵ハ衛生部員ニ非ラサル為詳細
ハ不明ナリ、
豫隊衛生隊ニハ軍醫長一名アリ、軍
醫長ハ醫師ナルモノ、如ク本密偵ノ
所屬セシマタツトハ騎兵聯隊ノガラムット
軍醫長ハフザバイカル、ブリヤードト出身
ニシテ本密偵モ嘗テ病氣ニ罹リシ時
診察ヲ受ケシコトアリ、其ノ際軍醫長
ハ聽診器ヲ使用セルヲ見タリト稱ス、
本密偵出傷ノ際ニハ衛生隊員ハ何レモ

0883
0884

圖如キ藥囊ヲ携行ス。火サハ我カ
雜囊ニ類ス。
又聯隊衛生隊ニハ患者收容馬車並ニ擔
架ヲ有ス。患者收容車ハ我カ患者車
類似ノモノ、如ク横臥患者ニ名又ハ坐位
患者ニ名ヲ收容シ得。患者收容馬車
ハ聯隊ニ一ニシテ擔架ハ約二〇ヲ有スル
モノ、如シ

0885

携行藥囊

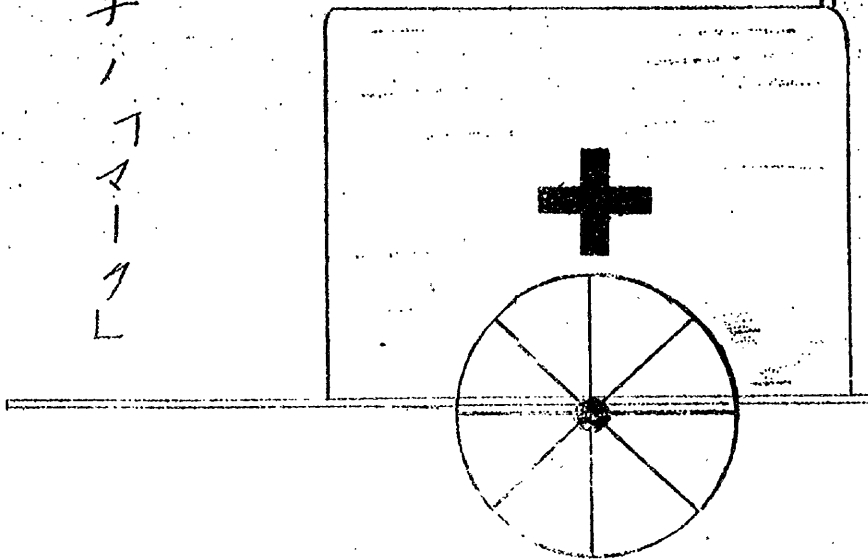


備考

一何レモ外部緑色ニシテ赤十字ノマーク
ヲ附ス

+

患者收容馬車



0886

(2) 軍隊内ノ疾病

結核、寄生蟲病、花柳病、天然痘等
多發スレケ中隊ニ於ケル練兵休患者數
ハ普通一〇乃至二〇名ニシテ衛生ニ注意
スル中隊ニ於テハ三三名ノ所モ有ル
カ如シ重症患者ハ師團衛生隊、更ニ
「ウランバートル」(庫倫)軍病院ニ送致
治療シ、輕症患者ハ中隊及聯隊ニ於テ
治療スルモノ、如ク庫倫ノ軍病院ハソ
聯隊ノ軍醫ニヨリ編成セラレアルモノ
ノ如シ

0887

本齋偵言ニヨレハ外蒙古ニハ「ホワル」ナ
ル疾病一九三五年始チ庫倫附近ニ多發セ
リ、原因ハ不清潔ノ爲食器等ヨリ感
染シ腸内ニ腫物ヲ生レソ、腫物破裂
スル時ハ多量ノ出血ヲ來タレ一日ニレテ
死亡ス、本病ハ約一ヶ月ノ經過ニレテ初
メヨリ食欲不振ノ爲メ衰弱シ微熱ア
リ、一日十行余ノ血便アリト、稀スルモ
「ホワル」ナル病名ハ蒙古語並露西亞
語ニハナク滿洲語ノ「花兒」ヲ指スモノ、
如ク「花兒」ハ天然痘ニレテ即チ一度發

0888

病スルヤ花ノ咲ク如クバツト^レ全身ニ症
状ヲ現ハスノ謂ニシテ本密偵自供ノ病
症トハ趣ヲ異ニスル又本密偵ハ衛生
兵ニ非ラサルヲ以テ^レホフル^レハ果シテ^レ花
兒^レナルヤ不明ナルモ下詔豫防接種^ト関
聯シ興味アル疾病ナリ

(3)
兵食

軍隊内ニ於テハ以前一日三食ナリシモ一
九三七年以來一日四食トナリ、朝食ハ
圓イ^レパン^レ二^レ斤少量ノ^レバター^レ角
砂糖ニケ蒙古茶ニシテ午食ニハ^レウ^レド^レ

0889

米、肉、ヲ與ヘラレタ食トノ間ニハ少量
ノ肉、夕食ハ主食ハ米、ニシテ夫レニ牛
乳ヨリ摂リタル黄色ノ油及砂糖ヲ加ヘテ
食ス、毎回ノ食事量ハ少量ニシテ常
ニ腹膨ル、時ナレ、蒙古人ハ習慣トシ
テ牛肉及羊肉ヲ食スルモ豚肉ハ食セス
又毎日多量ノ蒙古茶ヲ飲用ス、
漢習行軍時ニ於テハ「ウドン」又ハ「ハン
南砂糖」及「才茶」ヲ携行シ羊又ハ牛ヲ數
頭連行シ食用トスルコトアリ、
外蒙軍ノ水筒ハ我軍ノ水筒ノ倍大ナリ

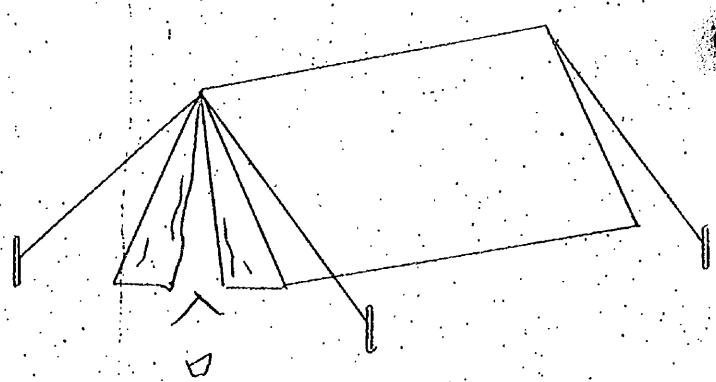
0890

宿營

騎兵一日ノ行程ハ概ネ三十料ニシテ從來
ハ包及固定家屋ヲ利用シ宿營セルモ赤衛軍ニ改
編以來ハ水邊ヲ求メテ專ラ天幕露營ヲ行
フ、天幕ニハ大小ニケアリ、大ハ三十名用
小ハ二十名用ナリ、色ハ綠ノ保護色ニシ
テ防水シアリ、約一口ケ宛一台ノ馬車ニテ
運搬ス、外蒙單ハ冬季演習ヲ行ハサルヲ
以テ天幕ニハ暖房裝置ナシ
幕舎ノ形狀次圖ノ如シ

0891

外蒙軍ハ雨季ニハ演習セズ將兵共ニ雨中
 ノ作戦ヲ特ニ好マサルカ如シ
 防寒具
 防寒外套ハ羊ノ毛皮ヲナメレテ赤色ニ



外面ハ綠色ノゴムレ引ナリ
 三十人用、二十人用アリ
 馬車ニテ運搬ス

0892

染メ使用ス「ズボン」ハ綿入レ防寒帽ハ羊皮製
青色ニテ「ヒサシ」ヲ有ス、靴ハ「カートンカ」ト
綿シ「フエール」ト製ナリ、極寒期ニ於テハ
此ノ防寒被服ニテ約ニ時間位ハ野外ニ立哨
シ得ト綿セラル

一般ノ衛生教育

聯隊ノ軍醫長ヲ毎月一回ニ時間宛衛生講話ヲ行フ中
隊ノ衛生部員カ代行スルコトモアリ、題材ハ「身體ノ清
潔法」「風邪ノ豫防法」等ニシテ救急法ノ如キハ
教育セラレサルモノ、如ク本密偵ノ自倣ニ依レハ戰
場ニ於テ戦友カ負傷スルモ^{彼等}ハ綿帶ヲ持タサレサルニ
ヨリ戦友ヲ馬ニテ運搬スルカ又ハ衛生部員現場ニ來テ處

シテ其アヨリ外ナント速ヘタリ

豫防接種

(1) 種痘ヲウケタルコトアリ

(2) 一九三五年ノ冬庫倫ニ流行病アリテ多数ノ死亡者ヲ出セリ「マタツト」ノ聯隊ニモ「ホワル」患者一名發生セルニヨリ「ホワル」ニ對スル豫防接種ヲ實施セリ(註、庫倫ノ流行病ハ「ホワル」ナルヤ不明ナリ「ホワル」ハコノ時初メテ流行セリト稱ス)然レトモ本豫防接種果シテ「ホワル」ニ對スルモノナルヤ疑ハシキ節有リ

接種液ハソ聯製ニシテ透明液ナルモ中ニ白キ雲ノ如キモノ浮游シ居タリ第一回注射ハ二cc位ノ注射器ニテ第二回第三回全量注射部位

ハ背部、間隔ハ一週間ナリント、毎回注射後ニ
ハ高熱ヲ發スルモ三日下熱スル事
局部ニ可成リ長キ
間疼痛ヲ覺ヘタリト稱ス

飲料水

本密偵ノ所屬セシコマタツトレハ聯隊ニテハ隊内ニ井
戸アリコレヲ使用ス兵隊ハ一日飯盒一杯宛三回オ
茶ヲ支給セラル、生水ノ飲用ハ嚴ニ禁止セラレ
アルモ暑氣甚タシキ時ハ事實生水ヲ飲用スト
云フ

隊内井戸ノ水ハ僅カニ溜濁シ馴レヌ者ハコノ生
水ヲ飲用スレハ下痢ヲ來セリ又別ニ隊外ヨリ
清潔ナル水ヲ馬車ニテ運搬シ使用スルモアリト云フ
演習ニ水筒ヲ携行ス、大サハ我カ水筒ノ約ニ

0895

倍大ナリコレ外蒙人ハ習慣上多量ノオ茶ヲ飲
用スルヲ以テナラン

演習ハ必ス井戸水ノアル地点ニ於テ實施ス宿營
モ亦同シ井戸水ハ軍醫長檢水後ニ非テハ使
用嚴禁サレアリ

外蒙兵ハ水ヲ濾過シテ飲用スル方法ヲ知ラサルカ
如ク從ツテ濾水機等整備セラレアラザルガ如シ
冬季雪ヲ溶カシテ軍馬ニ飲マセシコトアルモ氷ヲ使
用セシ例ナント云フ

然ラハ井戸ノナキ地点ニ於テ作戰スル場合如何^問
對シテハ指揮官ハ如何ナル方法ヲトルヤハ知ラサル
モ^{彼等}ハソレニ関シテハ何等平素ヨリ教ヘラレタルコ
トナク又外蒙軍ハ井戸堀ヲ專問トスル兵隊モナケ

レハ機械モナキニヨリ皆テ協力シテ井戸ヲ掘ルヨリ外
ナント自供セリ

△軍用井戸暴露事件

外蒙古共和國成立以來政府ハ民衆ノ福祉ヲ圖ル
爲ト稱シ所々ニ多数ノ井戸ヲ設ケ「マタツト」聯隊
附近ニモ数箇所ニ井戸ヲ掘レル事實アリ、然ルニ
一九三七年九月外蒙ニ内乱事件アリ時ノ「デミット」
陸軍大臣ハ逮捕セラレ^刑セラレタリ、當時新聞
「赤イ星」ニ發表セラレタル處^刑理由書ニ依リ外蒙軍
作戦井戸全貌不用意ニモ明カニ出タセタリ即チ
陸軍大臣ハ民衆ノ福祉ト稱シ井戸ヲ多数掘レルモ
是ハ一モ民衆ノ福祉ニアラス却テ滿洲國ヨリ外蒙
首都タル庫倫ニ至ル主要道路附近ニ「マタツト」

モノニシテ之ハ彼カ日本軍ノ外蒙攻撃手ニ利スル爲メ
ニ計劃セル役ノ謀叛心ニヨルト云フニアリ

10. 毒瓦斯戦並 B、K、ニ関スル智識

外蒙軍ハソノ聯製瓦斯マスクレヲ使用ス

但シ外蒙軍ニ於テ毒瓦斯ノ演習ヲセンコトナク又
外蒙軍ニ毒瓦斯ヲ有スルヤ否ヤヲ知ラス

彼等ノ毒瓦斯ニ對スル智識トシテハソノ聯軍ニハ雨

水ノ様ナモノニシテソレヲ滴下サレト身体カ腐蝕ス

ルモノ及ビ煙ノ様ナモノニテソレヲ吸入スル時ハ窒息死ス

ルコト又地上ノ草等ニ藥カ浸込マセテアリソレヲ踏

ムト足ガ腐ルト云フカ如キ藥ノアルコトヲ聞キ及ヒタル

コトアリト云フ~~様~~度アリ

B、Kニ對シテハ何等教ヘラレタル所ナシ然レトモ水ノ

飲用ニ對シ慎重ナル態度ヲ持セル所ヨリ見レハ幹
部級ニ相當ノ豫備智識アルモノト想像セラル

軍馬ノ疾病、防疫

軍馬ニ毎年鼻疽、炭疽等流行ス

ホフマンギル¹之ハ毎年秋ニ多ク發シ鼻ヨリ膿汁

ヲタラス獸醫ハ毎年一回秋ニマレイ¹ノ点眼ヲ

行ヒ輕症馬ハ拂下シ重症馬ハ撲殺ス

ロバ¹ガタル¹之ハ復屢々起ル病氣、朝元氣ナ

リン馬モ病氣ニナルト突然心臓部カ膨レテ呼

吸困難ヲ晝頃ニ敝死ス之ニ對シテハ獸醫ハ

心臓部ニ注射スルモ一向ニ効果ナカリント云フ

前ニ病ニ對スル豫防注射ヲ實施セル事實ナシ

又撲殺馬斃死馬アル時ハ淺キ穴ヲ掘リ僅カ

ニ屍体ノ没スル程度ニ埋没スルト云フ

12. 日本軍ニ對スル觀念

「日本ト云フ國ハ一般民衆ヲ苦シメルニトテ以テ國
是トシ徹底シテ資本主義國家テアツテ日本軍
隊ハ海ノ上テハ強イカ陸上テハ極メテ弱イ現ニ今
國境テ日本兵ト戦ツテ居ルカ我々ハ大捷ヲ博
シ澤山ノ捕虜ト捕獲品ヲ得タ。日本軍隊
ノ指揮官ハ後方ニ隠レテ居リ兵士ハ常ニ酒ニ酔
拂ツテラル故ニ我々ノ銃口ノ先ノ所マテアララ歩
イテ來テ立止マリキヨロクシテ居ルコノ時ニ一勢
射撃ヲスレハ日本軍ヲ全滅スルニトカ出來ル。外
蒙兵一ニ對シ日本兵一ニ對抗スル自信ガアルシ
カン日本ハ外蒙ガ慾シクテタマラヌ故ニ軍隊ハ命

0900

令ヲ受ケルト必ズ攻撃シテ來ルニ相違ナイカラ我々
ハ平素カラ國防ニハ重点ヲ惜カホバナラヌ

以上ハ一九三六年三月外蒙事件當時師團長
ノコマタツト聯隊將兵ニ與ヘタル訓示ノ一部ナリ
一九三六年二月及三月「ボイル」湖附近ニ於ケル
日蒙衝突ニ際シテハ有利ナル宣傳材料ヲ彼
等ニ委シタル節ナキニモアラス爲メニ外蒙兵
ハ一般ニ日本兵弱シトノ觀念ヲ抱キ居ルモノ、如ク
滿軍ニ對シテハ之ヲ軍隊トサヘ認メ居ラサルモノ、如ク

結論

之ヲ要スルニ外蒙赤衛軍ノ衛生裝備並衛生智識ハ
甚タ幼稚ナルモノ、如ク特ニB.Kニ關シテハ全然ノ無知
ノ現況ニアリ奇襲スヘキ好個ノ對象ナリ又巧妙

0901

ナル宣傳政策ニ集セラレタル彼等ハ極メテ驕傲
ナル態度ヲ持ス一度皇軍ノ一激ヲ喰ハンカ
彼等ノ狼狽推シテ知ルヘシ哉

附言

本調査ニ對シ多大ノ便宜ヲ與ヘラレタル者々哈爾特務
機關長安江中佐殿、海拉爾特務機關陸路大尉
殿同通譯生今城君ニ深甚ノ敬意ヲ表ス。

0902